

「ニュー・デトロイト」と化する メキシコ中央高原



Mazda de México Vehicle Operation
President & CEO
江川 恵司

マツダは、2011年6月、メキシコ合衆国グアナファト州サラマンカ市に自動車製造工場建設を発表した。この工場は、マツダ・デ・メヒコ・ビークル・オペレーション（MMVO）というマツダ（株）と住友商事（株）との合弁（出資比率70/30）生産会社として設立された。マツダにとっては、最大規模の生産能力（年間25万台）をもつ海外工場となり、現在マツダが進めている構造改革プランの中で最重要プロジェクトとして位置づけられている。

マツダ・メキシコ工場（MMVO）の概要

MMVOは、約256ヘクタールの敷地にプレス・車体・塗装・組立からなる車両一貫製造工場とエンジン機械加工・組立工場からなっている。2012年1月に工場建設に着手し、13年9月には試験操業開始、14年1月に量産開始した。また、同敷地内には大物部品サプライヤー4社（うち1社は建設中）が工場立地し、輸送・在庫コストの低減と生産の同期化による高効率部品調達を実現している。生産能力は、当初14万台/年で計画し建設をスタートしたが、建設完了を待つことなく大幅な能力増強を行い25万台/年まで引き上げた。生産車種はMazda3 Sedan、Mazda3 Hatchback、Mazda2 Hatchbackおよびトヨタ向けSion iA/Yarisの3車種4ボディタイプで、主に北米、



マツダ・メキシコ工場（MMVO）の遠景

欧州ならびに中南米に輸出しており、メキシコ国内向けは約10%程度である。

メキシコ中央高原

メキシコ中央高原（バヒオ地区）の自動車産業は、2011年以降急速に拡大を始めた。マツダの発表に続き同年8月、ホンダもグアナファト州セラヤ市に工場建設を発表し、以降日系を中心に自動車部品メーカーが続々と進出を決定している。同州の日系進出企業数は、11年の14社から現在は160社を超え、在留邦人数は約3000人に上っている。そして、15年4月にはトヨタも同州に工場建設を決定し、進出企業は今後もさらに増える見込みである。2020年にはメキシコ国内の完成車生産能力は500万台近くまで拡大すると予想され、なかでもグアナファト州は最大の自動車生産州になる見込みで、米国デトロイトを凌ぐ勢いといわれ、まさに「ニュー・デトロイト」の様相を呈している。同州は交通・物流の要となっていること、古くから進出している日産やGMとともに集積するサプライヤー群、良質で若い豊富な労働力が魅力となっている。

地域社会の活性化

グアナファト州への対内投資は2012～15年の4年間で78億ドルに上り、08～11年の4年間に比べ倍増している。またこの4年間で約11万7000人の新規雇用が創出されており、その大半は自動車産業である。11年当時は、街の生活インフラ（ホテル、レストランなど）は質量ともにきわめて貧しく、外国人駐在者にとっては厳しい生活環境であった。しかし、直近4年間で20軒以上のホテルが新築され、現在も幹線道路沿いに10軒以上建設中である。日本食レストランや食料品店数店が開業、大型商業施設の新増設も相次いでいる。このように州内の生活インフラは急速に改善しつつあり、地域社会・経済が活性化している。先に述べたように

在留邦人・企業数が大幅に増加していることに対応して、2016年1月には州最大のレオン市に日本国総領事館が開設され、今後の在留日本企業、邦人へのサービスも向上する。

1万1653kmを繋ぐ産官学連携

太平洋を渡って1万1653km離れているマツダの地元広島県とグアナファト州は、2014年11月に友好提携協定を結んだ。これに先立ち14年1月には広島大学とグアナファト大学は包括協力協定を結んでいる。行政の連携と大学の連携は、マツダおよび周辺サプライヤーのグアナファト州進出を契機に一気に加速した。現在のメキシコの抱える課題のひとつは教育の向上で、政府も十分に認識している。メキシコの大学進学率は約30%、卒業者はさらにその半分ともいわれている。限られた大学卒の学生たちが企業ニーズに合った教育を受けているかどうかで企業における教育訓練の内容、スピードも変わってくる。ここに広島とグアナファト両地域の人材ニーズとシーズをマッチングさせる海を渡る産官学の連携に注目し、交換留学・インターンシップなどの各種プログラムが始まっており弊社も積極的に参加している。また、各セクターにおける連携は単にビジネスにとどまらず、文化、芸術、スポーツにも及んでいる。

社会インフラ・治安のチャレンジ

ペニャ・ニエト大統領現政権になって全国レベルで犯罪件数は減少しており、治安の向上が確認されている。しかし、日系企業の進出が集中しているグアナファト州において犯罪件数は逆に増加傾向にあり、邦人被



Mazda3 Sedan



Mazda3 Hatchback



Mazda2 Hatchback



Toyota OEM

MMVOの生産車種

害件数は全国一である。連邦・州・市警察は警察力強化を打ち出し、また緊急コールセンターに日本語対応可能なジャパンデスクを開設し、治安向上ならびに日本人へのサービス向上を図っている。また、鉄道・トラック輸送中の盗難も多発しており、物流インフラの改善を含めた抜本的な抑制・防止対策が望まれている。自動車産業を中心としたバヒオ地区の成長・発展は目覚ましく、今後もさらに続くであろう。しかし、そのさらなる成長を可能にするためには物流を中心とした社会インフラの早急な整備が望まれる。鉄道貨車(特に自動車運搬専用貨車)は慢性的に不足しており、不足分はトラック輸送で代替している。そして、北米のみならず欧州・中南米への輸出港の積出能力も相当に逼迫^{ひっばく}している。高速道路網の整備は着々と進んでいるが、輸送貨物の増大に伴い路線拡大・増幅、舗装品質の維持改善、都市部を迂回するバイパス建設などのニーズが増大してくるものと予測される。

まとめ

マツダの構造改革の柱のひとつであるメキシコ工場は、今年で立ち上げ創設期を予定通り終えた。今後は、ハイレベルでの品質・操業の安定維持とともに、人・物・マネジメントの現地化を進め、マツダのモノづくりをメキシコで実現する真のメキシコ自動車会社としての成長過程に入る。そして、生産能力を最大限活用し、成長を通じてメキシコ自動車産業、経済の発展に寄与し、従業員・家族・地域コミュニティと共生して、皆様に愛されるよき企業市民としてその役割を果たしていく所存である。



組立ラインの現地スタッフ